

## 福岡市金武地区を事例とした農作業体験活動に適した公園緑地の計画条件に関する研究

The planning requirements of public parks that support satisfactory farming experiences in Kanatake district, Fukuoka City

徳永 哲\* 包清 博之\*\* 北原 憲太郎\*\*\*

Satoshi TOKUNAGA Hiroyuki KANEKIYO Kentaro KITAHARA

**Abstract:** The objective of this study was to recognize the planning requirements for setting public parks that contribute to have satisfactory farming experiences for citizens in the controlled urbanization area. In order to establish the planning requirements of such as public parks, the study set an activity program, a conservation planning program for rural area, and a planning approach for the introduction of park facilities from the view of local inhabitants and participants in farming experience activities. The Kanatake district, which is a controlled urbanization area in Fukuoka City, was chosen as the study case. A questionnaire survey was carried out for recognizing the opinions of local inhabitants and participants in farming experience activities. The analysis of questionnaire survey allowed to identify the components and suitable conditions that encourage people to choose a place for having satisfactory farming experiences. The results also showed how to encourage the people's participation in farming experience activities.

**Keywords:** *farm experience activities, local inhabitants, participants, planning requirements, questionnaire survey, public parks*

キーワード：農作業体験活動，地域住民，参加者，計画に求められる条件，アンケート調査，公園緑地

### 1. はじめに

都市における近郊の農地を、農作業等の体験活動を通して身近な自然とのふれあいの場として活用される例が増えている<sup>1)</sup>。これらの場では都市住民を主体とする参加者が、農作物の栽培や農地管理などを「楽しむ」ことを前提に、協働して体験的に行う活動（以下、農作業体験活動）が展開されている。都市計画区域内で多くの人が接することのできる農地のほとんどは、市街化調整区域に位置している。市街化調整区域には、農地・集落・里山などの複数の土地利用が相互に関係し合う里地環境が、かつての姿から変化しつつも残存する状況にある<sup>2)</sup>。都市における農地は農業生産面での役割のみならず、身近な農業体験の場の提供、災害に備えたオープンスペースの確保、潤いや安らぎをもたらす都市緑地空間の提供など、多様な役割を担っているとされている。このような農地に対して、従来の農業目的のみならず、人々が農作業体験等の活動に参加することを通して、レクリエーション・生涯学習・環境教育・交流などの機会を提供する役割が期待されている<sup>3)</sup>。近年では、地域の環境保全活動やボランティア活動などに対する関心の高まりを背景に、人々が協働して定期的な農地管理や耕作を行う農作業体験活動が、新たな社会貢献への参加の活動形態としてみられるようになってきている<sup>4)</sup>。

しかし農地法<sup>5)</sup>では、「農地は、所有する農業従事者が効率的な農業生産に資する耕作を行う土地である」とされ、非農業従事者が農業生産目的ではない耕作を行うことは認められていない。このことを踏まえ、一団の農地を公有地化して公園緑地とし農作業体験活動の活動場所とする事例もみられるようになった<sup>6)</sup>。

既往研究をみると、公園緑地の管理運営に関しては、ボランティア制度や活動のあり方に関する研究<sup>7)</sup>、地域住民による公園管理の活動実態から課題と展望を示す研究<sup>8)</sup>、公園緑地運営への住民参加に着目した研究<sup>9)</sup>などがあり、その実態や効果を評価する検討が行われている。一方で農作業体験活動に関してはその活動母体や活動形態の実態解明を主目的としたもの<sup>10)</sup>が殆どであり、

計画に求められる条件を明らかにしたものはみられない。

以上のような背景から、農作業体験活動の活動場所が存在する地域で生活を営む人々（以下、地域住民）と、農作業体験活動に参加する人々（以下、参加者）の双方の視点からみた農作業体験活動の支援に資する条件を明らかにし、活動運営、里地環境保全、活動場所の選定に関する計画的枠組みが必要であると考えた。

そこで本研究では、市街化調整区域内での市民による良好な農作業体験活動に適した公園緑地の計画に求められる条件を把握することを目的とした。そのために、地域住民、参加者の双方の視点から、農作業体験活動の適切な活動場所の条件や活動内容にかかわる条件を把握した。調査対象として、福岡市において市街化調整区域が大半を占め、農業就業者数の割合が市街化調整区域内に位置する全ての小学校区の平均より高く、人口が増加しているとともに農作業体験活動が既に展開している金武小学校区（以下、金武地区）を取り上げた。地域住民および農作業体験活動の参加者に対してアンケート調査を実施し、地域住民の参加意欲の向上にかかわる条件、参加者が活動を通じて魅力を感じる要素、活動に適する場所の選定条件などを把握した。

### 2. 調査の概要

#### (1) 調査の手順

本研究は、以下の手順で調査による把握・検討を進めた。

1) 小学校区を単位として捉え、福岡市内の小学校区<sup>11)</sup>について、その現況を把握、類型化し、本研究の調査対象地区を抽出した。そして、その対象とした金武地区の特徴と位置づけを明確にした。

2) 地域住民の農作業体験活動への参加条件を把握するため、地域住民を対象としたアンケート調査を実施し、地域住民と緑との係わり、参加意欲からみた農作業体験活動への関心等を把握した。

3) 農作業体験活動の魅力向上に係わる条件を把握するため、農

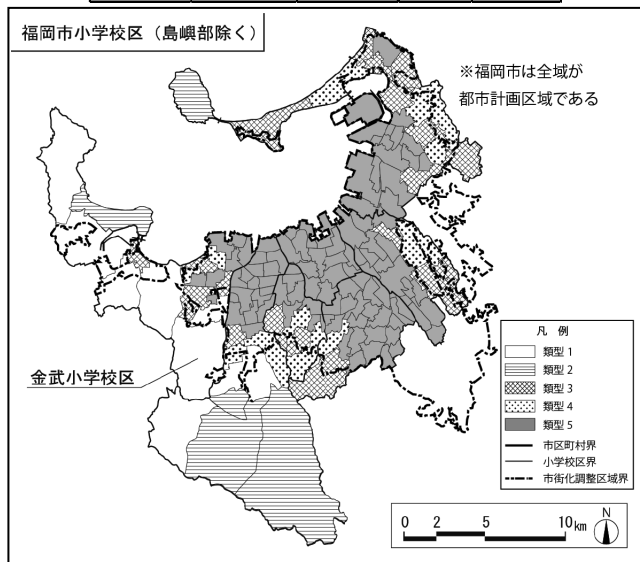
\*エスティ環境設計研究所

\*\*九州大学芸術工学研究院

\*\*\*大阪市 建設局 公園緑化部

表一 小学校区の類型化

条件			類型	該当小学校区数
市街化調整区域	農業就業者数割合	人口増減		
一部または全域	平均以上	増加	類型1	8
		減少	類型2	6
	平均未満	増加	類型3	18
		減少	類型4	11
なし	—	—	類型5	100



図一 小学校区類型結果及び調査対象地の位置

作業体験活動への参加者を対象としたアンケート調査を実施し、農業体験活動で魅力を感じる要素及び農業体験活動以外の関心を把握した。

- 調査対象地内に存在する農地の、農業体験活動の対象地としての利用可能性を検討するため、調査単位を設定し、農地の量的側面及び存在特性を把握した。さらに、各調査単位の周辺環境として住宅戸数を把握した。
- これまでの結果を踏まえ、地域住民・参加者の双方の視点からみた公園緑地の計画に求められる条件を検討した。

### (2) 調査対象地区の抽出とその根拠

福岡市は全域が、都市計画区域であり市街化区域と市街化調整区域内とに分けられている。この中で、市街化調整区域は、当面の間市街化を抑制すべき土地として位置づけられ、古くから営まれてきた農地の多くが残存する状況にある。また、農業体験活動に対して地域住民は、参加する、参加を受け入れる、の両方の立場が考えられ、なかでも地域において農地を所有する農業就業者は、活動場所として農地を提供するだけでなく活動の指導者となる可能性もあると考えた。また、調査対象地区の抽出にあたっては、農業体験活動に適する公園緑地の計画と地域のまちづくりとの連動を視野に入れた地域単位、すなわち小学校区を単位として捉えることが適切であると考えた。

そこで手順1)に対応して、まず福岡市内の143の小学校区<sup>12)</sup>(島嶼部の3校区を除く)ごとに市街化調整区域への該当の有無を把握した。次に、一部または全域が市街化調整区域に該当する43の小学校区について、全就業者数に占める農業就業者数の割合、人口増減を把握した。各小学校区的全就業者数に占める農業就業者数の占める割合は、平成17年度の国勢調査の結果を用い、43校区全体での農業就業者数の割合より高かった小学校区を「平均以上」、低かった小学校区を「平均未満」と評価した。各小学校区の人口増減は、過去5年間の人口増減を捉えることとし、平成22年9月現在および平成17年9月末の住民基本台帳に基づく小学校区別人口から「増加」、「減少」を把握した。これらの結果から、

表一、図一に示すように小学校区を類型化した。この類型結果を踏まえ、市街化調整区域を一部含み、農業就業者数の割合が高く、人口が増加している類型1に該当する小学校区8校区のうち、農業体験活動の展開が顕著な金武地区を調査対象地区とした。金武地区の一部は市街化区域に指定され、大規模な民間宅地開発が進んでいる。そのため、1996年から2005年にかけての人口増加率<sup>13)</sup>は、55.3%と、福岡市で最も高い数値を示しており、増加傾向は今後も続くと思われている<sup>14)</sup>。

### 3. 地域住民を対象とした参加条件の把握

手順2)に対応し、農業就業者を含む地域住民と緑との係わり、参加意欲からみた農業体験活動への関心等をアンケート調査により把握した。地域住民を対象としたアンケート調査は、訪問配布・訪問回収の方法で、2010年9月に実施し、総被験者数は122名であった。

#### (1) 地域住民が緑に接する場所の把握

地域住民が農業体験活動へ参加しやすい場所の条件を把握するため、地域住民が日常的に緑に接する場所を把握した。

金武地区は、地区の東側に室見川(二級河川)が流れ、これに沿った低地部に農地や住宅が広がっている。西側には飯盛山をはじめとする山々が連なり、西側の大半は山林に覆われている。金武地区の約6割が森林、約2割が農地である。また、地区内の各地から福岡市の中心部方向の市街地を遠望することができる。東側の低地部において交差する主要な道路が、東西方向・南北方向へ十文字状に伸びている。地区の北側には西部運動公園があり、その他大小13の公園や広場がある。さらに市の指定文化財である飯盛神社、国指定史跡である吉武高木遺跡など、金武地区の歴史や伝統を伝える場所が存在している。アンケート調査を行う上で、このような金武地区固有の里地環境の要素の存在を踏まえることが重要と考えた。そこで、地域住民が日常的に緑に接する場所を把握するために設定した設問では、地図<sup>15)</sup>及び現況調査を通じて、金武地区内で緑に接することができる場所を抽出し、それらをアンケート調査票での選択項目(複数回答形式)とした。選択項目は5種類に分類し、表二に示すように集計した。その結果、最も回答者数が多かった場所は「公園・街路関係」であり、次に多かったのは「農地関係」の場所であった。一方で、学校や公民館といった多くの人が利用する「公共施設関係」の場所は、緑に接する場所としてあまり認識されていないことが把握できた。

#### (2) 農業体験活動への参加意欲からみた関心等の把握

農業体験活動への参加意欲からみた関心等を把握するため、まず、金武地区内で行われている農業体験活動への参加経験を把握した。その結果、農業体験活動に参加したことがない人は、総被験者122名中98名であり、全体の80.3%であった。次に、参加経験のない人を対象として、今後の参加意欲を表三に示すように集計した。表三から、「②気が向いたら参加してみたい」の回答率が40.82%、「③わからない」の回答率が22.45%であり、多くの人が参加を躊躇していることが分かった。

この結果を踏まえ、参加意欲と以下の3つの設問とのクロス集計を行った。なお、以下の設問はすべて複数回答形式とした。

##### 1) 興味のある農業体験活動

興味のある農業体験活動は、表四のように分類し、表五に示すようにクロス集計した。その結果、最も回答率の高い活動は、野菜を育てる活動や農地の定期的な管理といった「継続管理型」の活動であった。

##### 2) 興味を持った理由

表六に示すようにクロス集計した。その結果、「②地域の人と交流したいから」や「⑨子どもに体験させたいから」の回答率が高かった。これら2つの項目は $\chi^2$ 検定の結果、有意差が認められ、

参加意欲の高い人たちが特に多く回答していることが分かった。

### 3) 参加を躊躇する際の不安事項

表-7に示すようにクロス集計を行った。その結果、「⑤時間がない」や「⑦定期的な参加ができない」の回答率が高かった。また、これら2つの項目は、 $\chi^2$ 検定の結果、有意差が認められず、どの参加意欲の人たちも様に不安事項として感じていることが分かった。これらの2項目に次いで回答者の多かった「①活動に関する情報を得る機会がない」という項目は、 $\chi^2$ 検定の結果、有意差が認められ、参加意欲の高い人たちが特に不安に感じていることが分かった。

表-2 緑に接する場所

種類	緑に接する場所 (アンケート調査での選択項目)	回答者数 (人)	回答率 (%)
種類1 農地関係	②田畑の周りのあぜ道	81	66.39
種類2 公園・街路関係	①公園、④街路樹のある道	89	72.95
種類3 自然関係	③自由に入れる山林、⑥河原などの はらっぱ、⑦ため池の周り	53	43.44
種類4 歴史関係	⑤神社やお寺の境内、⑩史跡の 周り	47	38.52
種類5 公共施設関係	⑧公民館などの公共施設の周り、 ⑨学校	21	17.21

表-3 農作業体験活動への参加意欲

参加意欲	回答者数 (人)	回答率 (%)
①参加してみたい	15	15.31
②気が向いたら参加してみたい	40	40.82
③わからない	22	22.45
④参加したくない	18	18.37
無回答	3	3.06
合計	98	—

表-4 興味のある農作業体験活動の種類

種類	興味のある活動(アンケート調査での選択項目)
種類1 イベント開催型活動	①草花を植える活動、④田植え体験、⑤稲刈り体験、 ⑧収穫祭等のイベント
種類2 継続管理型活動	②草花の手入れ、③野菜を育てる、 ⑥草刈り等の農地の定期的な管理、⑦間伐等の山林の管理
種類3 収穫物利用型活動	⑨収穫物の食卓会・宴会、⑩収穫物を使った料理教室
種類4 学習会型活動	⑪動植物の観察・学習会、⑬農業に関する学習会

表-5 参加意欲と興味のある活動の種類のクロス集計結果

参加意欲と回答者数(人)	①参加してみたい	②気が向いたら参加したい	③わからない	④参加したくない	合計	$\chi^2$ 値
興味のある活動の種類と回答者数(人)	15	40	22	18	95	
● 種類1 イベント開催型	38.7	45.2	12.9	3.2	100.0	23.50
● 種類2 継続管理型	25.6	46.5	16.3	11.6	100.0	8.96
● 種類3 収穫物利用型	31.4	51.4	14.3	2.9	100.0	19.18
● 種類4 観察・学習会型	30.4	52.2	17.4	0.0	100.0	11.04
合計	15.8	42.1	23.2	18.9	100.0	—

●: 検定の結果、有意差が認められた項目 単位: %  $\phi=3$   $p=0.05$   $\chi^2=7.81$   
 各合計の割合より大きい回答率

表-6 参加意欲と興味を持った理由のクロス集計結果

参加意欲と回答者数(人)	①参加してみたい	②気が向いたら参加したい	③わからない	④参加したくない	合計	$\chi^2$ 値
興味を持った理由と回答者数(人)	15	40	22	18	95	
①家族や知人と交流したいから	15	20.0	66.7	6.7	100.0	6.26
● ②地域の人と交流したいから	20	35.0	45.0	10.0	100.0	8.94
③外で体を動かしたいから	17	29.4	52.9	11.8	100.0	6.04
④緑に囲まれた場所に行きたいから	12	33.3	50.0	16.7	100.0	5.73
● ⑤動植物に触れたいから	16	37.5	31.3	25.0	100.0	7.95
● ⑥動植物について知りたいから	15	40.0	46.7	13.3	100.0	10.82
⑦収穫物が欲しいから	12	25.0	41.7	25.0	100.0	1.58
● ⑧珍しいことに挑戦したいから	10	50.0	30.0	20.0	100.0	10.84
● ⑨子どもに体験させたいから	21	28.6	61.9	9.5	100.0	12.57
⑩なんとなく	4	0.0	50.0	25.0	100.0	0.81
⑪その他	5	20.0	0.0	40.0	100.0	4.16
合計	15.8	42.1	23.2	18.9	100.0	—

●: 検定の結果、有意差が認められた項目 単位: %  $\phi=3$   $p=0.05$   $\chi^2=7.81$   
 各合計の割合より大きい回答率

表-7 参加意欲と参加への不安のクロス集計結果

参加意欲と回答者数(人)	①参加してみたい	②気が向いたら参加したい	③わからない	④参加したくない	合計	$\chi^2$ 値	
参加を躊躇する際の不安事項と回答者数(人)	15	40	22	18	95		
● ①活動に関する情報を得る機会がない	19	26.3	63.2	10.5	0.0	100.0	10.30
②一緒に参加する人がいない	11	27.3	54.5	9.1	9.1	100.0	3.20
③知らない人との交流	15	13.3	53.3	20.0	13.3	100.0	0.97
● ④体力に自信がない	14	0.0	28.6	50.0	21.4	100.0	8.47
⑤時間がない	30	20.0	36.7	36.7	6.7	100.0	7.75
● ⑥興味がない	12	8.3	25.0	8.3	58.3	100.0	13.99
⑦定期的な参加ができない	39	17.9	43.6	28.2	10.3	100.0	3.60
⑧植物や農業に関する知識がない	7	14.3	71.4	14.3	0.0	100.0	3.24
⑨作業できる服や道具がない	6	16.7	16.7	50.0	16.7	100.0	3.00
⑩活動場所に行くための交通手段がない	7	42.9	28.6	28.6	0.0	100.0	5.36
⑪虫が苦手	14	7.1	50.0	21.4	21.4	100.0	1.10
⑫体が汚れるのが嫌だ	1	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	3.35
⑬天候・気候に対する不安	3	33.3	66.7	0.0	0.0	100.0	2.35
⑭その他	4	25.0	25.0	0.0	50.0	100.0	3.61
合計	15.8	42.1	23.2	18.9	100.0	—	

●: 検定の結果、有意差が認められた項目 単位: %  $\phi=3$   $p=0.05$   $\chi^2=7.81$   
 各合計の割合より大きい回答率

### (3) 地域住民の参加条件の把握

以上の結果から、以下の諸点が地域住民の参加への興味や意欲に係わっていることが分かった。

- ・「公園・街路」と「農地」は、地域住民が緑を認識する対象となる可能性が高いこと。
- ・参加意欲と興味がある活動は、継続管理型の活動であり、興味をもった理由は、地域の人との交流や子どもの体験が重要であること。
- ・参加時間の確保や定期参加への不安、活動に関する情報を得る機会が重要となること。

### 4. 参加者を対象とした参加条件の把握

手順3)に対応し、参加者を対象としたアンケート調査を実施し、農作業体験活動で魅力を感じる要素及び農作業体験活動以外の関心を把握した。参加者を対象としたアンケート調査は、金武地区内の農地で農作業体験活動を行っている「かなたけ田育の会」<sup>16)</sup>の参加者を対象に、2010年10月に実施し、総被験者は21名であった。当該活動への参加状況を表-8に示した。

表-8 活動への参加状況

	参加者数 (人)	参加割合 (%)
1年目	6	28.57
2年目	5	23.81
3年目	10	47.62
合計	21	—

#### (1) 農作業体験活動で魅力を感じる要素の把握

参加者を対象とした調査では、農作業体験活動の魅力の向上に係わる参加条件を把握するため、表-8で把握した参加年数からみた、農作業体験活動で魅力を感じる要素を把握した。農作業体験活動で魅力を感じる要素は、「作業時間のプログラム」、「活動場所の選定」、「作業以外のプログラム」、「学習の機会の提供」の4つに分類を設定し、それぞれの項目について「非常に魅力的」、「少し魅力的」、「なんとも思わない」、「あまり魅力的でない」、「全く魅力的でない」、の5段階で評定してもらった。その結果を、表-8で把握した活動への参加年数(1年目、2年目、3年目)ごとに把握した結果を、表-9及び図-2に示した。

作業時間のプログラムに関する項目は、全体では「②農具の使用」や「③動植物や土に触れること」の評定平均値が特に高かった。「①稲作(農作業)そのもの」についてみると、2年目、3年目の参加者の評定平均値と比較して、1年目の参加者の評定平均

値は低かった。また、学習の機会の提供に関する項目では、「⑫農業についての知識を得ること」や「⑬農以外についての知識を得ること」の評定平均値は、他の項目よりも低かった。稲作や農業に関する学習の機会を提供することは、参加の継続意欲に影響を与えると考えられた。活動場所の選定に関する項目は、全体では「⑤遠くに見える山々」の評定平均値が特に高かった。「④田や畑が広がっている様子」や「⑥静かな田園環境」の評定平均値も高く、田畑の広がりや遠景の山々といった周辺環境は、農作業体験活動の活動場所を選定する上で、重要な要素となることが把握できた。作業以外のプログラムに関する項目は、「⑨参加者(家族)との交流」、「⑩地元農家の方との交流」ともに評定平均値が高く、魅力を感じる全ての項目の中でも最も高かった。このことから、農作業体験活動の魅力には、参加者同士の交流や、地元農家との交流が大きく関わっていることが把握できた。

(2) 参加者の農作業体験活動以外の関心の把握

農作業体験活動以外の関心は複数回答形式で回答してもらい、参加年数とのクロス集計を行った。その結果を表-10に示した。指摘の多かった項目は、「⑫金武地域での散策・ウォーキングイベント」、「⑬収穫物を使った食事会・宴会」、「⑨「田育の会」参加者との交流会」、「⑩金武地域の人との交流会」であった。χ<sup>2</sup>検定の結果、どの項目でも有意差は認められなかった。

(3) 農作業体験活動の魅力向上に係わる条件の把握

以上の結果から、以下の諸点が参加者からみた農作業体験活動の魅力向上に係わっていることが把握できた。

- ・農作業体験活動の魅力の向上には、参加者同士や地域住民との交流が大きく関わっていること。
- ・活動場所を選定する上で、周辺の田畑の広がりや山々などの里地環境が重要な要素となっていること。
- ・稲作や農業に関する学習情報を提供することが必要であること。
- ・活動への参加を通して、地域への関心や、収穫物を活用することへの関心が高まっていること。

5. 農作業体験活動の対象地としての立地条件の把握

農作業体験活動の対象地としての立地条件を把握するために、調査単位を設定し、各調査単位に存在する農地の量的側面および存在特性からみた利用可能性を把握した。農村地域を対象とした研究においては、流域界および等高線を捉えた地形条件に基づいて調査単位を設定することが適切であると考えた。農作物の生育に影響の大きい水の管理にとって河川の流れば重要であり、流域を基本に集落や地域コミュニティを形成していると考えられている。また景観の側面からも、可視領域の骨格の抽出が可能となる単位であると考えた。

(1) 農地の利用可能性の把握

手順4)に対応し、地形条件に基づいて調査単位を設定した。福岡市都市計画図(1/5,000)<sup>17)</sup>(以下、地図)から金武地区内の河川を把握し、尾根線と谷筋から流域界を判読し、1次流域単位までの流域単位を設定した。尾根線と谷筋の判読が困難な平地部分では、道路を指標として流域単位を設定した。その結果、金武地区内で5流域単位を設定することができた。さらに、流域界及び20m間隔の等高線を捉え、88の調査単位を設定し検討した。最も低い等高線は20mであり、最も高い等高線は480mであった。なお、4桁の調査単位番号を設定し、上1桁を流域単位番号(1~5)、下3桁を標高(020~480)とした。

次に、各調査単位の農地面積及び農地1箇所あたりの面積を把握した。まず各調査単位内に存在する農地の箇所数を把握することとし、地図上で判読できる道路・通路または河川・水路で分けられた農地を1箇所とした。次に各調査単位の農地面積を、農地の箇所数で割り、農地1箇所あたりの面積を把握した。農地があ

表-9 農作業体験活動で魅力を感じる要素の評定平均値

分類	魅力を感じる要素	評定平均値				X <sup>2</sup> 値
		1年目	2年目	3年目	全体	
作業時間のプログラム	①稲作(農作業)そのもの	3.83	4.80	4.60	4.43	6.47
	②農具の使用	4.67	4.40	4.50	4.52	4.23
	③動植物や土に触れること	4.00	4.80	4.70	4.52	6.34
	④体を動かすこと	4.17	5.00	4.10	4.33	11.14
活動場所の選定	④田や畑が広がっている様子	4.33	4.80	4.40	4.48	6.07
	⑤遠くに見える山々	4.33	5.00	4.50	4.57	3.53
	⑥静かな田園環境	4.33	4.80	4.40	4.48	1.69
	⑦日本らしい農家の家屋	3.83	4.80	4.33	4.30	7.81
作業以外のプログラム	⑨参加者(家族)との交流	4.50	4.80	4.80	4.71	1.89
	⑩地元農家の方との交流	4.67	5.00	4.60	4.71	2.71
学習の機会の提供	⑫農業についての知識を得ること	3.83	4.80	4.30	4.29	9.34
	⑬農以外についての知識を得ること	4.17	4.80	4.10	4.29	2.93

φ=8 p=0.05 X<sup>2</sup>=15.51

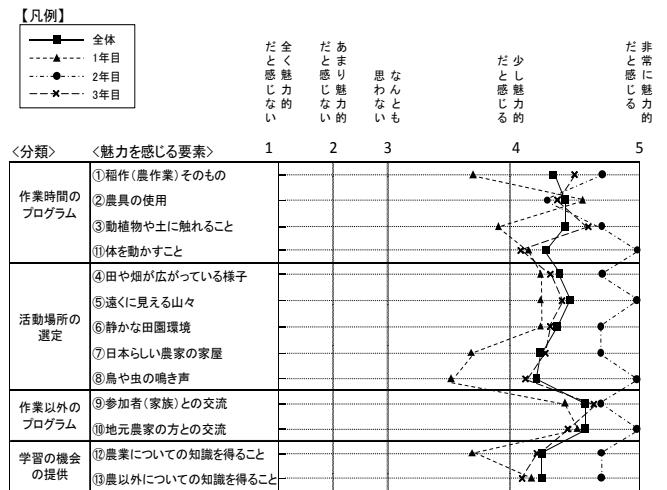


図-2 農作業体験活動で魅力を感じる要素の評定値図化

表-10 参加者の農作業体験活動以外の関心

参加年数と回答者数(人)	1年目			2年目		3年目		合計	X <sup>2</sup> 値
	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
関心を持った対象と回答者数(人)	6		5		10		21		
①金武地域で行われている四季の祭事	6	16.7	33.3	50.0	100.0	0.75			
②金武地域での散策・ウォーキングイベント	12	25.0	33.3	41.7	100.0	1.40			
③金武地域で行われている稲作以外の農業体験	9	22.2	33.3	44.4	100.0	0.86			
④金武地域で行われている森林の間伐などのボランティア活動	3	0.0	66.7	33.3	100.0	3.85			
⑤収穫物を使った食事会・宴会	11	18.2	27.3	54.5	100.0	1.22			
⑥収穫物を使った料理教室	7	28.6	28.6	42.9	100.0	0.15			
⑦動植物の観察・学習会	8	37.5	25.0	37.5	100.0	0.65			
⑧農業に関する学習会	4	0.0	50.0	50.0	100.0	2.84			
⑨「田育の会」参加者との交流会	12	25.0	16.7	58.3	100.0	1.40			
⑩金武地域の人との交流会	11	36.4	18.2	45.5	100.0	0.82			
⑪その他	1	0.0	0.0	100.0	100.0	1.16			
合計		28.6	23.8	47.6	100.0	—			

●: 検定の結果、有意差が認められた項目 単位:% φ=2 p=0.05 X<sup>2</sup>=5.99  
■: 各合計の割合より大きい回答率

表-11 農地の量的側面からみた類型

条件		類型	該当調査単位数
農地面積	農地1箇所あたりの面積		
平均以上	平均以上	多・広	6
平均以上	平均未満	多・狭	5
平均未満	平均以上	少・広	4
平均未満	平均未満	少・狭	8
— (農地なし)	— (農地なし)	農地なし	65

る調査単位については、農地1箇所あたりの面積の平均から、「平均以上」、「平均未満」に分類した。さらに、調査単位あたりの農地面積が平均以上のものを「多」、平均未満のものを「少」とし、また、農地1箇所あたりの面積が平均以上のものを「広」、平均未満のものを「狭」として分類した。これらの組み合わせによって、農地を有する調査単位を、「多・広」、「多・狭」、「少・広」、「少・狭」の4つの類型に整理した。その結果から、農地の量的側面からみた類型を表-11に示すように設定し、こうした類型化と合わせて、各類型の分布と位置を地図上で確認することにより、各調査単位に存在する農地の、農作業体験活動に適した活動場所としての利用可能性を把握した。

また、農地の存在特性からみた利用可能性を検討するため、農地がある調査単位について、主要道路、公園から最も近い農地までの直線距離を計測し、それぞれの距離の平均から、平均以上のものを「長」、平均未満のものを「短」とし分類した。加えて、各調査単位に存在する農地までの公共施設からの距離を把握した。公共施設として、農作業体験活動を支援する施設となりうる、公民館、集会所、小中学校を捉えた。農地がある調査単位については、すべての農地までの公共施設からの距離の平均から、平均以上のものを「遠」、平均未満のものを「近」とし分類した。

### (2) 地域住民の農作業体験活動に適する立地条件の把握

3章の検討の結果から、地域住民の継続的な参加を支援するためには、定期的な管理が比較的容易な面積の狭い農地が多く存在していること、また、地域住民が認識しやすい農地として公園・街路に近いことが、農作業体験活動を支援する公園緑地の立地条件となると考えられた。これらのことから、地域住民の参加支援条件からみた類型を表-12に示すように設定した。類型Aに該当する調査単位は、適切な活動場所となりうる狭い農地が多く存在し、道路・公園からの距離が近く、地域住民の継続的な参加を支援しやすい場所であると認識した。類型Bに該当する調査単位は、狭い農地が多く存在している一方で、活動を地域住民から認識されにくいことから、情報提供等の支援が必要となると考えられた。

### (3) 参加者の農作業体験活動に適する立地条件の把握

4章の検討の結果から、農作業体験活動の魅力向上のためには、収穫物を活用した交流活動などを支援できる場所があること、また、田畑の広がった里地環境を認識しやすいことが条件となると推察した。これらのことから、農作業体験活動の魅力向上に係わる支援条件からみた類型を表-13に示すように設定した。類型aに該当する調査単位は、周辺に存在する農地の広がりを認識しやすく、交流活動を支援する場となりうる公共施設からの距離が近いことから、参加者の継続的な参加を支援しやすい場所であることが窺えた。類型bに該当する調査単位は、公共施設からの距離が遠く、交流活動を支援できる機能を確保する必要があると考えられた。

## 6. まとめ

これまでの結果から、福岡市金武地区においては、以下の諸点が地域住民、参加者の双方からみた農作業体験活動を支援する条件となることが把握できた。

- ・緑に接する主要な場所である公園や街路に近い農地は、地域住民・参加者が緑を認識する対象となる可能性が高いこと
- ・地域住民・参加者が活動を認識しにくい場所で活動を行う場合は、農作業体験活動に関する情報提供を行うことが重要となること
- ・地域住民・参加者が継続的に参加できる活動を行うためには、比較的農地の管理が容易な狭い農地を対象地とすること
- ・農作業体験活動の魅力向上には、対象地の農地のみでなく、周

表-12 地域住民の参加支援条件からみた類型の設定

	類型A	類型B	類型C	類型D	類型E	類型F
農地の量的側面からみた類型	多・狭		多・広		少・広 / 少・狭	
主要道路・公園からの距離	短	長	短	長	短	長
該当調査単位	<2040> <4040> <4060>	<1040> <3020>	<2020> <3040> <3060> <5060>	<2060> <3080>	<1020> <4080> <4100> <4120> <5040> <5080>	<1060> <1080> <2080> <2100> <3100> <4140>

表-13 参加者の活動支援条件からみた類型の設定

	類型a	類型b	類型c	類型d	類型e	類型f
住宅戸数	平均未満			平均以上		
農地の量的側面からみた類型	多・広 / 多・狭		少・広 / 少・狭		多・広 / 多・狭	少・広 / 少・狭
公共施設からの距離	近	遠	近	遠	近	遠
該当調査単位	<2020> <2060> <3020> <3060>	<3080>	<1060>	<1020> <1080> <2080> <2100> <3100> <4080> <4100> <4120> <4140>	<1040> <2040> <3040> <4040> <4060> <5060>	<5040> <5080>

表-14 地域住民・参加者の双方の視点の支援条件

	類型A	類型B	類型C	類型D	類型E	類型F
類型a	—	<3020>	<2020> <3060>	<2060>	—	—
類型b	—	—	—	<3080>	—	—
類型c	—	—	—	—	—	<1060>
類型d	—	—	—	—	<1020> <4080> <4100> <4120>	<1080> <2080> <2100> <3100> <4100>
類型e	<2040> <4040> <4060>	<1040>	<3040> <5060>	—	—	—
類型f	—	—	—	—	<5040> <5080>	—

辺に存在している里地環境の広がりや山々といった要素が重要となること

- ・農作業体験活動の魅力、参加者の継続的な参加には、参加者同士や参加者と地域住民との交流が重要であり、そのような交流を支援できる場所の確保及び整備が必要であること
- ・稲作や農業に関する学習の機会を提供することが、参加者の継続的な参加に必要であること
- ・農作業体験活動への参加を通して、地域への関心や、収穫物を活用することへの関心が高まっていること

以上の条件に係わる、地域住民・参加者の双方の参加を支援しやすい調査単位の類型は表-14に示すように整理でき、該当する調査単位は図-3に示すように分布している。その結果、類型Aと類型aの両方を満足するような農作業体験活動を支援する条件を兼ね備えた調査単位は金武地区には存在しないことがわかった。これらのことから、各調査単位の特性に応じて、農作業体験活動を支援する条件を満たしていく計画の必要性が認識できた。さらに、農作業体験活動を支援する公園緑地の計画においては、活動に適した農地の区画の検討、交流場所の確保、適切な情報提供等が施されていることが重要な条件であると考えられる。

また、多面的機能を有する里地環境の中に位置する活動場所と、地域住民・参加者の双方との交流を伴う活動運営とが、農作業体験活動を通じて関連付けられることの重要性が認識できた。

今後は、農作業体験活動を支援することを目的に設置された公園緑地における年間の農作業体験活動内容に関する計画的諸条件

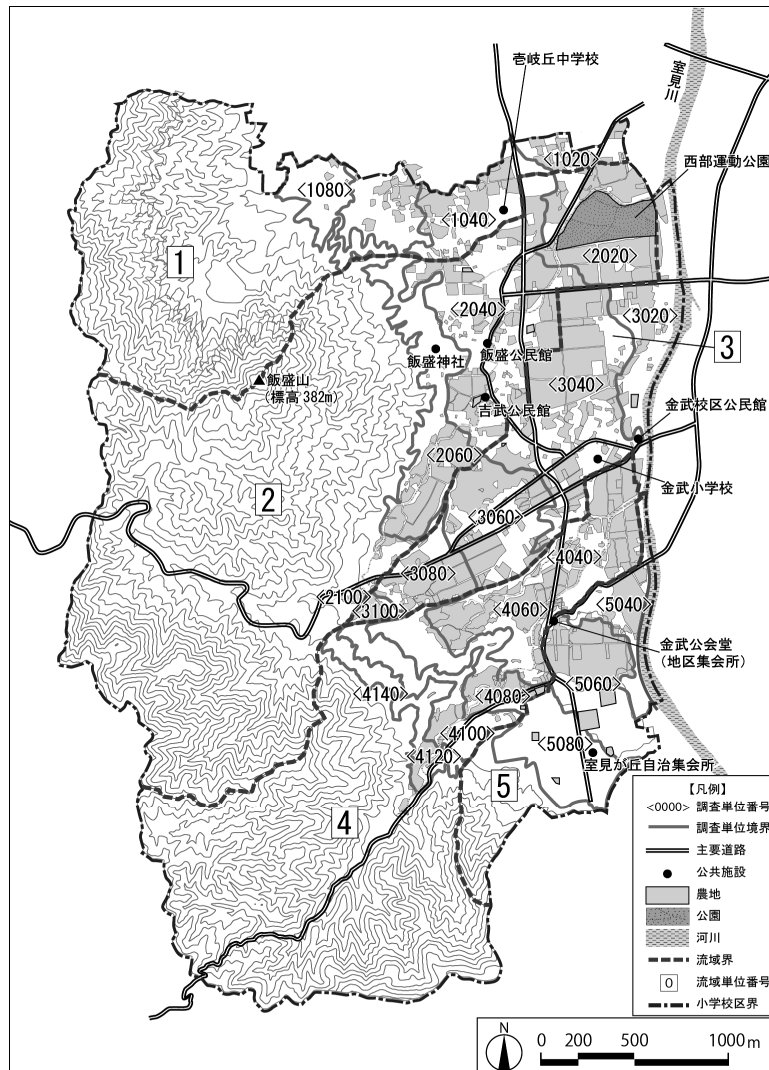


図-3 支援条件からみた類型結果の分布

を明らかにすることが、農作業体験活動の満足感を高めるための課題となると考える。

#### 補注及び引用文献

- 1) 笠原卓, 後藤春彦 (2000) : 都市農地における共同耕作グループの実態に関する研究 : 都市計画論文集 35, 643-648
- 2) 和多治 (1999) : 市街化調整区域における地区レベルの土地利用計画に関する研究 : 都市計画論文集 34, 277-282
- 3) 栗田英治, 横張真, 山本徳司 (2009) : 都市近郊地域における農地の非産業的利用の成立過程 : ランドスケープ研究 72 (5), 727-730
- 4) 農林水産省 (2013) : 図説 食糧・農業・農村白書 平成 24 年度版
- 5) 総務省 : 法令データ提供システム、農地法 : <http://law.e-gov.go.jp/htldata/S27/S27HO229.html>
- 6) 農林水産省 Web ページ : 都市農業の役割 : [http://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi\\_nougyou/index.html](http://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi_nougyou/index.html)
- 7) 倉本宣・永井敬子 (2002) : 桜ヶ丘公園雑木林ボランティアの活動と組織に対する意識 : ランドスケープ研究 65 (5), 455-460
- 8) 岩村高治・横張真 (2001) : 神戸市における地域住民による公園管理の実態とその展望 : ランドスケープ研究 64 (5), 671-674
- 9) 菅博嗣 (2003) : 市民意向に基づいた公園運営管理計画の策定手法に関する研究 : ランドスケープ研究 66 (5), 749-752
- 10) 柳川豪・加賀宏之・下村泰彦・増田昇 (2004) : 堺市金岡地区における農空間保全に向けた各主体の土地利用に関する研究 : ランドスケープ研究 68 (5), 937-942
- 11) 福岡市 (2010) : 福岡市立小学校区通学区区域図 (30,000 分の 1)
- 12) 前掲 11)
- 13) 福岡市 (2009) : 福岡市新緑の基本計画 : pp11
- 14) 福岡市 (2005) : 福岡市新基本計画 西区基本計画 : pp85
- 15) 福岡市 (2010) : 都市計画図 (1/5,000) No93-95, 106-108, 115-116
- 16) 「かなたけ田育の会」は、春から秋までの稲作体験を楽しむ愛好会グループで、金武地区内の農家の手ほどきを受けながら、約 40 名の会員で耕作放棄地を活用して活動している。
- 17) 前掲 15)